

参考資料：委員アンケートより抜粋（景観・水辺、環境関連）

区の好きなおところ

（まちなみ・景観）

- ・混在（住宅、商店、町工場など）していることが町の活力を生み出している。
（かつての都市計画の理論からすれば、用途地域が明確でなく、整備されていない、遅れた地域という位置付けであったが、逆に、ここは住宅地、ここは商業地などと切り分けられていないことから活力が生まれている。）
- ・コンパクトにまとまっているところ。色々な場所の距離が近いので、居住者にとって施設利用の際の利便性が高い。密集していることは、郊外に比べ整備する量が少なく済むのでインフラ整備の点でも効率的である。
- ・気負わずに過ごせる街の雰囲気と暮らしやすさ。
- ・まちに多様性がある。スカイツリーと昔ながらの長屋が1つのフレームに収まる風景もユニークだし、住んでいる人たちもユニーク。特に京島界隈は、EXPO で訪れたアーティストが住み着き、活動したりお店をつくったりしており、外から来た人たちと地域の人たちが混ざり合っている。他の地域では生きづらかった人たちが、すみだで居場所を見つけて移り住んでくることもよくある。
- ・商業地もあり、観光地もあり、治安も良く、適度な住民同士の関わりがあり、楽しく住みやすい。まち歩きなどをしても飽きることなく、度々新しい発見もある。
- ・隅田公園や錦糸公園にイベントがある日、ない日に関わらず人が集まっていること。イベントがある日は、老若男女、ときには国籍関係なく多くの人が集まり、交流している。イベントがない日も、家族やカップル、グループが団らんしている。
- ・急速に発展し、便利の反面、下町の風情が感じられる地域がある。

改善すべきところ

- ・高齢者や子育て世代が安心して散歩や遊びができるような公園や緑道、水辺の空間など、自転車の練習、ミニバスケなどができるオープンスペースを増やしてほしい。密集していることで生まれるスペースの活用を進めて欲しい。
- ・密集していることで、乱雑に見えるのではなく、隅々まで目が行き届いているような環境整備を進めて欲しい、もっと景観デザインの視点が欲しい。たとえば、電線の地中化や、道路よりも狭い路地スペースを歩行者空間として整備することなど。
- ・都市計画がない、もしくは不明確。墨田区の資源である向島や京島などの情緒ある昭和な街並みの景観を維持するため、防災の観点と情緒を融合した開発計画があってもいいと思う。両国駅からすみだ北斎美術館までの動線上に葛飾北斎由来のものがほとんどない。地域の資源を活かしたまちづくりができていない。道路を広くする、鉄道を高架するだけでなく街並みの景観を大事にすることも都市計画に組み込むべきである。
- ・これ以上の開発促進より二大地域開発（錦糸町・両国地域、押上・曳舟地域）に対応した自然環境づくりに力を入れてもらいたい。墨田区の特徴である隅田川、荒川、旧中川を大いに活用した区民の心の癒しになる場所づくり。

まち全体として大切にしていけるべき理念

- ・限られた中であっても自然との調和を意識したまちづくり。
- ・自然を感じ、触れられる環境と景観。
- ・コミュニティ空間として道路や公園を利用する。
- ・路地園芸（沿道緑化）と公園などの農園化の文化。
- ・墨田区には大横川をはじめ、小さな川が住民のうるおいになっており大切にすべきである。
他の区によっては川を暗渠するなどあってはならないと思う。
- ・河川を活かしたまちづくり、コミュニティを増やしていく。
- ・北十間川等の内部河川の水辺空間整備と、舟運利用の検討をして墨田区の独自性をアピールしてはどうか。

※アンケートの原文ママで意見を掲載しています。